

住宅産業CS大会を開催

2022年10月21日（金）13：00～16：10 TKP新橋カンファレンスセンターにて、「CSへの取組み ～SDGsから考えるCS～」をテーマに住宅産業CS大会を開催し、on-lineと併せ413名の参加がありました。

会員企業である大和ハウス工業株式会社、パナソニック ホームズ株式会社の2社からの事例発表に続き、特別講演として、千葉商科大学教授：笹谷 秀光様よりご講演をいただきました。

特別講演

『SDGs経営によるCSの推進』

講師： 笹谷秀光氏

Profile

- 1977年 農林省入省、農林水産省大臣官房審議官、関東森林管理局長などを歴任。
- 2008年 株式会社 伊藤園入社。（2010年から2014年まで取締役、2018年まで常務執行役員）
- 2020年 千葉商科大学基盤教育機構教授。
- 2022年 日本光電工業株式会社社外取締役就任。

現在は日本経営倫理学会理事、グローバルビジネス学会理事、特定非営利活動法人サステナビリティ日本フォーラム理事、宮崎県小林市「こばやしPR大使」、未来まちづくりフォーラム実行委員長など、幅広くコンサルタント、アドバイザー、講演、そして書籍執筆等で活躍中。



はじめに

本日は住宅産業CS大会での講演につきまして、準備にあたり関係者の皆様に多大なご配慮をいただいたことに感謝を申し上げます。

今回のように、リアルで皆さんの熱気を感じるのは久しぶりです。コロナ禍がここまで続くと思えてきた人は世界でもあまりいなかったはずですが。

住宅産業も大きな影響を受け大変なことと思いますし、CSの部分で言えば、カスタマーのいろんな価値観が変わるわけですから、住宅関連が最も大変かもしれません。

よく聞くようになりました「SDGs」、今はこれが私の専門分野になりましたので、今日はこれと絡めてお話をさせていただきたいと思います。

最初に、これは白川郷の写真ですが、これが全てを語るようなところがあります。

茅葺き屋根の古民家が全部で白川村に130ぐらい残っています。この茅葺きは30年ぐらいすると少し腐ってきたりするの

で、葺き替え作業をしなければいけないわけですが、現在はNPO等いろいろな方の協力を得てこの作業をやっています。「結（ゆい）」という仕組みで、みんなで保全するという古くからの日本の良き伝統が現代に生きています。

住宅というのは特にそのような側面がありますし、大きなものから小さいものまで、作るところからメンテナンスやアフターケアも含めて、日々皆さんが様々な努力をされているのではないかと敬意を表します。

さて私は、農林水産省にいた31年の中で、中山間地域という山場のエリア担当になったときに、地域政策という意味で住宅政策とも関係する分野を経験しました。環境省や外務省にも出向し、役所を終えた後は伊藤園に行きました。お客様第一主義というのを非常に大事にしている会社でしたので、出会ったのがCSRだったり、カスタマー関係のCSにも出会いました。

その後、千葉商科大学で教壇に立って、さらに博士（政策研究）になりました。

そうすると結果的に「産官学」全体をカバーする経験となりました。それらを総合したSDGsが私の専門になりました。

私が本を書き始めたのは、CSRの時代から、理論も整理しながら動かないと現実の動きについていけないと思い、本を書いたりしているうちにSDGsと出会ったわけですが、今やそれが私のライフワークになりつつあります。

さて今日のテーマであるSDGsですが、2015年9月25日にできたものなのですが、お話ししたいのは、SDGsというのは、使うものなのだと言うことが一つ目。そして使い出すと良き仲間ができる。これが二つ目。三つ目は発信性が極めて高いということ。この三つをお話ししたいのです。

そして「SDGsの主流化」と書きましたが、最近では新聞などでもどこでもしょっちゅう目にするようになったはずで

1. SDGsとは…

まずSDGs：Sustainable Development Goalsとは何なのか？

この基本からなのですが、訳すと、『持続可能な開発目標』となるのですが、Developmentは、発展と訳した方が通用しやすいです。持続可能な発展をする、つまり個人も発展する→皆さんも発展する→会社も発展する。そこで、まずDevelopmentは発展と訳し直した方がいいですね。

小さなsは複数形のsなので、17の目標の中でつまみ食いはいけませんよという感じで、全体をパッケージでやってくださ

す。政府は2022年にSDGsの政策をまとめました。政策の本数として554本、総額7.2兆円がSDGs関連の政策となっています。おそらく住宅関係の事業でもよく見る言葉だと思います。

主流化、つまりSDGsを『参考にしましょう』というものではないのです。政策のど真ん中、事業のど真ん中に来ている、そのど真ん中に来ているSDGsをしっかりと自分の中にビルトインしていかないともったいないということです。

しかし、SDGsは自主的取り組みであり強制的なものは何もないのです。政府は音頭をとっていますし、自治体も音頭をとっています。しかし、民間企業は別にやってもやらなくてもいい。自主的なものですから使う人は使う、使わない人は使わない。関心ある人はある、関心のない人はない。しかし、あつという間に差がつくんです。今日はその怖さを実感し、自分はどっち側にいるかなという気持ちで話を聞いていただければと思います。

いねという想いを込めて、わざわざ国連関係者はエスディー・ジェズと言っているのです。

ここまででもまだ十分ではないのです。実は最も大事なのもはこれです。

＜我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ＞。

実は大事なものは、このSDGsを盛り込んだ国連の合意文書なのです。トランスフォーミングアワーワールド

SDGsはなぜ世界共通言語なのか

SDGsとは何か

円環バッジ？



マーク？



SDGs：Sustainable Development Goals

（持続可能な開発目標）

「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」

Transforming our world: the 2030 Agenda for Sustainable Development

2015年9月
国連全加盟193か国の合意文書
SDGsは英文35ページの中の約15ページ
目標年次2030年

2030アジェンダの構成
前文・各種原則
SDGs(17目標と169ターゲット)
フォローアップなど

（Transforming our world）と書いているとおり、変革志向でできています。そして、2030年を目標とした、そこまでにやるべきことを洗い出した内容です。

2015年9月25日に合意されましたが、国連加盟193カ国すべてが合意したもので、英文にして35ページにわたる文章の中の途中15ページ分ぐらいにSDGsが記載されています。1番の「貧困をなくそう」に始まる17の目標について、それぞれの目標に10個ぐらいのターゲット（具体的目標）があり、全部で169もある。この重たい15ページにわたる文章が、SDGsなのです。これがSDGsの本質です。

2. 2030アジェンダを読み解く（SDGsの5原則）

まず、SDGsを盛り込んだ国連合意文書に示されている基本原則を理解しておくはいけません。

原則の1番目に「ウェルビーイング」も目指す目標になっています。この言葉も最近よく聞かと思いますが、SDGsを盛り込んだ文書の基本として書かれています。

2番目に、公正とか公平とか寛容、つまり開かれていてオープンで、みんなを包み込むような社会を作りましょうと言われています。

3番目に、持続可能な経済成長の中で、働きがいのある人間らしい仕事をしましょう、ということが入っています。

これらは、あなたの会社はどんな志の会社なのか、という最近話題の「パーパス」を作るときのヒントになり、さらに、みんなで自主的に取り組んでいく中で、社員エンゲージメントの向上にもつながります。

また、国連文書を読み解くと、SDGsには次の通り5つの原則があるのですが、これが非常に良くできています。

3. 5つのPと17の目標

また、アジェンダの前文にある『5つのP』を、SDGsを理解するための出発点にいただきたいのです。

まず1番目に、ピープル・people。これは、人間が危機だという認識です。2番目にプロスペリティ・prosperity。繁栄は大丈夫なのか。3番目はプラネット・planet。地球は限界だ。4番目がピース・peaceで、これも危機にある。5番目にパートナーシップ・partnership。みんなで連携しようという気持ちが弱いのではないかと。

このように、5つのP が全部危機だという認識になっています。

これらの危機を救うために、国連で2013年ごろから3年くらい議論して、何をすべきかということで洗い出したら、まず人

日本人には英語であるというハンディも否定できないと思いますが、何となくのんびりしていたというのが日本ではないかと思うのです。しかし、今やあらゆる局面でビジネスがSDGs化しています。

ですから今日は、SDGsを正しく理解しないとビジネス仲間から置いていかれるかもしれない…という怖さがある、ということに照準を絞って話をしていきたいと思います。

国連関係者が本当によく考え抜いた仕組みだと思えますが、まず①番目が『普遍性』。善いことは広めよう、という意味です。

②番目が『包摂性』と言いまして、誰一人取り残さない。

③番目が『参画型』と言いまして、いろんな方とコミュニケーションを取りながらみんなでやりましょうというもの。

④番目の『統合性』は、ビジネスにとって最も重要で、環境に良い、さらに社会に良いというだけでなく、経済にも良い、つまり利益を上げる、と言っているわけです。ここがビジネスにとっても最も大事なところ。プロフィットにつながらないようなことは続かないからです。継続性を持たせるためにはやっぱり収益につながるような仕組みでやってもらいたい。つまりビジネスマインドでやれということがはっきり書いてあるのがSDGsの特性です。

それから⑤番目に『透明性』でやってくださいと。やっていることをどんどんと発信して広げましょうということです。

この5つの原則が非常に良くできています。

間にとって大事なのが、SDGs1～6番だということになり、以下17番までの目標がそれぞれ5つのPに即して掲げられることとなりました。

このうち、特に住宅に関連するのは、3番の健康と福祉。皆様の住宅環境整備をする流れの中で、見通しの悪い道路にしないようにするとか、街路樹をきちっと整えとか、こういったような健康な街というものも含まれます。

7番のクリーンエネルギーは、皆さんの仕事で言えば太陽光発電設備の設置など、そのものズバリですね。

9番は、例えば13番の気候変動に対処するための太陽光パネルの作り方とか、メンテナンスの仕方とかのノウハウが入ろうかと思えます。

16番のピースのところはよく見てください。平和の象徴である鳩が乗っているのは、裁判官の小槌＝公正性の象徴です。皆様の仕事で言えば、コンプライアンスだとか、ルールや建築基準法の遵守だとか法令関係も全部入ってきます。

このように、SDGsは皆様のビジネスのチャンスリストでもありリスク回避のリストでもあります。つまり、この両面で使うということがSDGsの使い方です。



4. SDGsは経営マター（笹谷マトリックス）

時間の関係で後は読んでいただくことにしまして、皆様の事業への当てはめ方をご紹介します。

ビジネスへのあてはめめでよく使われるのが、バリューチェーン分析と言いまして、調達→製造→販売…こういうビジネスの流れ全体にSDGsを当てはめていくことによって、チャンスとリスクを全部洗い出していくと、大体全てのSDGsが関係しま

す。こういう整理も一つの方法です。

それから169のターゲットを全部当てはめていかないと、きちんと当てはめたことにはなりにくいので、この辺を網羅的に整理する、というのがいわば「規定演技」です。これを終えて、次に各社の重点課題を決める。これが「自由演技」の領域です。この両方にトライをしていただく。



そのためのツールとして、私が提唱している整理学は、やるべきことリストを左側に書いて、例えばコーポレートガバナンスとか人権とか環境とか、やるべきことを書いて、17の目標のどれに該当するかということをマトリックスの形で整理していく。

これを「ESG/SDGsマトリックス」と呼んでいます。もしご興味湧いた方は私の『Q&A SDGs経営 増補改訂・最新版』（日本経済新聞出版）をお読みいただき作成していただきたいと思います。

一つ、関連事例として最近(株)熊谷組でのESG/SDGsマトリックス作成を監修させていただきましたので、社長と対談した内容とともにご紹介させていただきます。熊谷組では、このマトリックスを使って実施している事業とSDGsの当てはめを終えました。ご参照いただきたいと思います。

まとめますと、SDGsは協働関係者と連携するプラットフォームになり得るということです。それから、価値を創造し収益にもつながるパターンになる。そして、学んで発信すれば、仲間が増えるということです。

そういう意味で企業の創造性とイノベーションにつながることがポイントだと思いますので、競争力強化にSDGsをフル活用していただきたいと思います。

経営について書いた『Q&A・SDGs経営』の最新版では、今私が申し上げたことの深掘りや各論も書いてあります。

最近思いますが、社会や環境についての考え方やルールの変化の速度が非常に速くなっていて、ひとつずつ違うものとして理解していると難しい。根底にあるものは全て「持続可能性」ということです。そこで基本となるフレームワークを頭において、そのフレームワークに変化している新たなものを取り込んでいくというような感じの、累積型の学習構造に持っていければと思います。そのために、本日示したマトリックスが生きる

と思います。今日の話ヒントにして展開していただきたいと思います。

おわりに、この協会の教育委員会では、有意義な勉強の機会を提供しています。今日をきっかけに少し深掘りをして、SDGsの捉え方さえ判れば、もっと深くやっていこうという感じになろうかと思います。

こういう学びの場を設定するというのは非常に貴重なことで、今日に向けて準備の段階から大変ご苦労されたと思います。これだけ丁寧な学習をしている組織は非常に少ないです。本日のCS大会全体での内容をお互いに学ぶというやり方が効果が高いと思います。

実行委員長、そして幹部やスタッフの方々のご努力に敬意を表し、お礼を申しあげて私の話を終わりたいと思います。

どうもありがとうございました。



▶ 笹谷秀光の公式サイトー発信型三方よしー
<https://csrsdg.com/>

次の3タイプのご依頼に対応いたします。

1. サステナビリティに関する理論と実践へのアドバイス・コンサルティング (CSR/CSV/ESG/SDGsなど。企業をはじめ、自治体も対象)
※スポット的、継続的いずれも対応
2. 役員との懇談 (ダイアログ)、幹部研修、従業員ワークショップなど
3. サステナビリティ、まちづくり等に関する講演・シンポジウム参加、これに関連する執筆対応やアカデミア活動 (大学、学会)



当日の会場の様子

2022年度 プレハブ住宅コーディネーター (PHC) 新規資格認定講習・試験を開催

「プレハブ住宅コーディネーター資格認定制度」は、プレハブ住宅の営業担当者が「プレハブ住宅を販売する営業担当者」にとどまらず、お客様満足向上のために信頼される住まいづくりのエキスパートとして、プレハブ住宅コーディネーターを育成するための制度です。

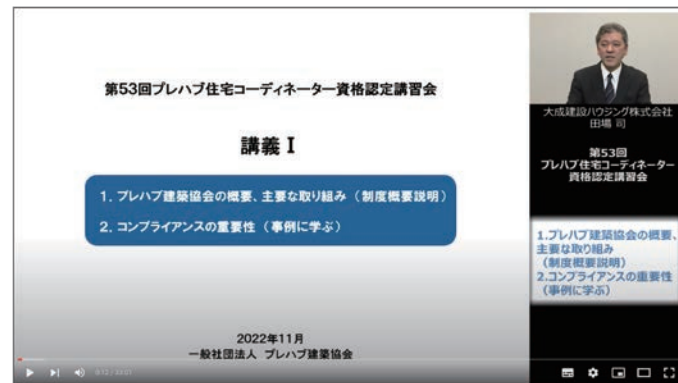
審査の上、資質があると認められた方を「プレハブ住宅コーディネーター」として、当協会が認定致します。「プレハブ住宅コーディネーター」は、プレハブ住宅産業の発展を担うだけでなく、住生活全般の水準向上を推進するための大きな使命と誇りをもって業務を遂行していただきます。

例年は、全国各地の会場での集合型講習会を行ってまいりま

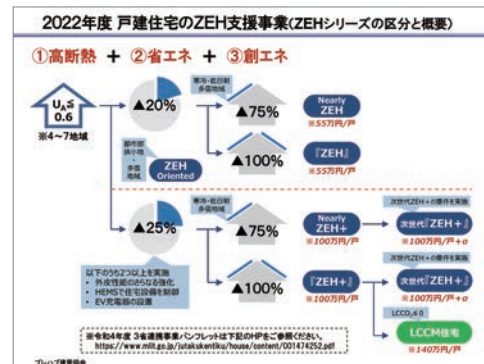
したが、本年度は昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの感染状況を鑑みて、Webによる講習会（講習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、事前課題）及び、資格認定試験を11月に開催致しました。現在、資格認定者を審査中で、結果は2月下旬頃に確定する見込みです。

当資格認定制度は、1990年（平成2年）からスタートした制度です。様々な建築法規や関連法令、住宅税制、コンプライアンス、インテリア、エクステリアなど、会員の営業担当者として必要とされる多岐にわたる専門知識を身につけ、社会規範の遵守を徹底することにより、より信頼される住まいづくりのエキスパートを育成することを目的としております。2021年度末での資格認定者は、累計で34,672名になります。

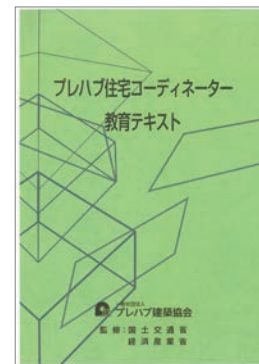
講義動画



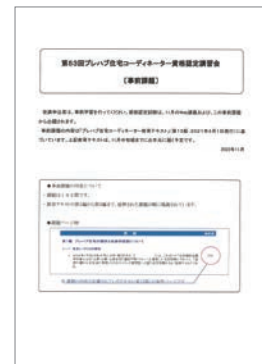
講義テキスト (一部抜粋)



教育テキスト



事前課題



資格認定試験



■受講者からの評価

新規資格認定Web講習会に参加した受講者からご意見をいただきました。Web方式による実施で感じられたメリット、また集合できなかったことによるデメリットなど、いただいたご意見を次回以降に反映してまいります。

- ・時間の効率化が図れた。
- ・講習会への移動の必要がない。
- ・講習動画を巻き戻して何度も復習できた。
- ・データにて講習資料を保存・印刷できることが良い。
- ・自分のスケジュールに合わせて学習できる点が良い。
- ・わかりづらい箇所を再度確認・見直し・調べる時間があるのが良かった。
- ・受講者同士で知識の共有ができない。